

取組【8】	環境・景観の保全、整備	 連携②③④⑤⑥
観光地の資源特性 ◎：優先的に実施 ○：基本的に実施 ★：特に配慮して実施		実施主体 （特に効果が高いもの）
★街並み ○スキー場	★都市 ○農山村地	★社寺 ★温泉 ○自然風景
<b>取組の狙い</b> ○地域のメインとなる観光資源（観光施設、イベント会場等）の周辺環境（案内看板、路面等）をコンセプトに即した形で整備することで、施設間のスムーズな移動と地域イメージの向上を図る。		<input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 観光推進組織 <input type="checkbox"/> 民間事業者
<b>取組推進・障害打開のポイント</b> ○施設や空間、体験プログラムのフィールドと周辺環境の一体的な整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域としての一体感を出すためには、施設や空間の整備と同時に、その周辺環境も一体的に整備する必要がある。観光施設が発見・創出したコンセプトに沿って建設される場合には、周辺環境もそれになじむような姿として整備することが望ましい。特に、案内看板や路面の仕上げを地域のイメージに合った色彩や形状に統一するだけでも印象は大きく変わる。</li> <li>・また、体験プログラムを実施する場所の周辺環境についても適切に保全、整備する必要がある。体験を望む観光客は、その地域全体の環境や雰囲気を楽しむ傾向があるため、体験プログラムの内容に対応した環境・景観の保全、整備をすることが望ましい。</li> </ul> ○各種支援制度の効果的な活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設同様、周辺環境の整備についても支援制度を効果的に活用することが望ましい。特に、街路灯や案内看板、歩行者用道路の整備については、行政からの補助制度を適切に活用することで個別には難しい大規模な整備が実施可能となる。</li> </ul> ○ハード・ソフトを併せた周辺環境の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境や景観の整備というと、ハード面での整備のイメージが強く、財源の確保が困難であるという考えが一般的だが、道路脇に花を飾ったり町中へ植樹するといった、地域住民のアイデアによっても周辺環境を向上させることは十分可能である。</li> </ul>		
<b>期待される効果</b> ○地域全体に統一感が生まれイメージの定着が図られる。 ○環境が向上することにより住民の地域に対する意識が向上する。		

## 連携が必要な取組

- 環境・景観保全のための条例、協定、制度の策定（No.4）
- 各種支援制度の効果的活用（No.5）
- 観光資源を体験するプログラムの発掘・実施（No.6）
- 観光資源を表現する施設の整備（No.7）
- 観光の立ち寄り、情報拠点となる施設の整備（No.9）
- 観光客の足となる二次交通手段の整備（No.10）
- 観光客の移動をサポートする仕組みの導入（No.11）

## 参考事例

### ○事例1 七日町ローマン小路整備事業（会津若松）

㈱まちづくり会津の「アイバッセ」や七日町通りまちなみ協議会の「会津ブランド館」の整備と同時に地域全体の統一感を考慮した路面の整備を実施している。

<特徴>

- ・住民組織と行政の連携による整備が、「大正浪漫」のコンセプトに基づいた地域イメージの構築に貢献している。

### ○事例2 まちなかへの植樹（黒川温泉）

日本で最も美しい温泉地「黒川温泉」を目指して毎年、街中の雰囲気にとけ込むように植樹することで、地域のイメージをより一層向上させている。

<特徴>

- ・庭木ではなく地域の風土に調和する雑木を植樹することで、訪れる人々に自然で美しい景観を提供している。

### ○事例3 高野山金剛峰寺周辺地区におけるまちづくり総合支援事業の活用（高野山）

ポケットパークの整備、サインの整備、電線類地中化、駐車場整備を一体的に進めることで、景観に配慮した町並みを形成し、訪れる人に対して滞在する魅力や快適性を提供している。

<特徴>

- ・高野山としてのイメージの確保と滞在中の参拝客へ快適な空間を提供するため、地域のイメージに合わせた景観整備をあらゆる角度から一体的に推進している。